

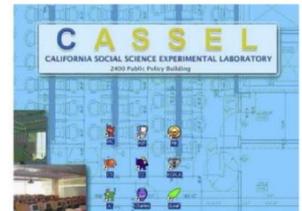
# 視覚情報記号論レジメ 7

名古屋市立大学 2016 年度講義  
久木田水生

## 1 記号としての顔

相貌失認あるいは顔失認と呼ばれる症状は人の顔の全体像を脳の中で形成することができず、そのために人の顔が適切に区別できなくなるというものだ。相貌失認の患者でも、眼鏡や髭など特徴的な部分を持っている人は認識できる場合もある。このことが示すのは個々の人間の顔の違いというものは眼鏡があるかないか、髭があるかないかのようなはっきりした違いではなく、もっと微妙な識別しにくい違いだ、ということである。多くの人間は難なく他人の顔を識別しているように思っているが、実際にはそれは私たちが自覚している以上に高度な能力なのである。このことは見慣れない外国人の顔はより識別しにくいという事実、あるいは一卵性双生児は親しくない人には区別がつかないが親しい人には区別がつくという事実を思い出してみるとより明らかになる。私たちは身近に接する人間については微妙な違いを認識できるようになるが、そうでなければ二つの顔の違いを適切に見分けることは困難なのである。

顔から得られる情報は、その人が誰であるかということに限らない。人間の表情にはその人の心の状態が顕著に表れる。表情は意図的に作ることもできるが、しかし作り笑いはしばしば心から出る自然な笑いとは異なるものになり、相手に良くない印象を与えることもある。相手が自分に対して好意を持っているか、あるいは敵意を持っているかという極めて重要な情報を表情が与えるため、人間はそれを敏感に読み取る能力を発達させたのだろう。



## 2 目の力

幼児は周りの人間の顔を見るとき、特に目に注目している時間が長いという。相手の顔の表情が相手の感情を読み取るヒントになる一方で、相手の目がこちらを向いているということは相手もこちらに関心を持ち、こちらの表情や行動を観察しているということを示している。人間は相手の感情に敏感であると同時に、自分の表情や振る舞いに対する相手の関心にもとても敏感なのである。Haley と Fessler はある実験で、被験者にパソコンを使わせて独裁者ゲームをやらせた<sup>1</sup>。これはペアになった被験者の一方が、与えられた金額の配分を決定するというゲームである。この時、パソコンの壁紙に目が描いてある場合には、配分がより平等になる傾向がみられた(右上図参照)。このような効果を利用して神戸市では違法駐輪を減らすために人の顔写真を張り付けた看板を設置し効果を上げている<sup>2</sup>。



<sup>1</sup> Haley and Fessler, “Nobody’s watching? Subtle cues affect generosity in an anonymous economic game”, *Evolution and Human Behavior* 26 (2005) 245 – 256.

<sup>2</sup> <http://cyclist.sanspo.com/112098>